

# とうざん通信 つなぐ

always be with you

医療法人社団東山会・地域医療連携室広報誌  
2016.5.1 発行

 Touzan-kai

創刊号  
~ Spring ~



新年度

理事長 ご挨拶

私たちの住む調布市の基本構想を見ると“まちの将来像”は「みんなが笑顔でつながる・ぬくもりと輝きのまち調布」と書かれています。2013年度を初年度として、2022年度を目標年次としています。更に“まちづくりの基本目標”の3つ目に「だれもが安心していきいきと暮らすために」、5つ目には「地域のつながりの中で、ぬくもりのある暮らしをおくるために」というテーマがあります。調布市も高齢者が増えていきます。特に75歳以上の後期高齢者人口が増えます。10年後には、85歳以上の人口が、75歳から80歳の人口を上回ります。そして一人暮らしの方が増えていきます。がんばって社会を支えてくれた高齢者の方々や障害を持った方々が、たとえ一人暮らしでも「その人らしく」誇りをもって、

住み慣れた地域で暮らし続けることができる。支えられるだけでなく、支える側にもなって、きらきらと笑顔を輝かせている地域。このような地域は、「次代を担う子供たちにとっても、夢を持って健やかに育つことのできる」地域でもあると信じております。

これを実現するためには、地域のあらゆる組織や団体、住民までもが“自分ごと”としてとらえ、共通の目標に向かって『つながり』協力しあいながら、それぞれが出来ることを磨いていくことが大切だと考えています。

私ども東山会は、1982年の創業以来「市民のだれもが、いつでも、安心して、より高度の医療を受けられる病院をめざす」ことを理念に掲げ、地域医療に取り組んでまいりました。高齢化社会・

慢性疾患主流の時代において、引き続き「医療の質」を保つことに精進するとともに、患者さま・ご家族・地域に「寄り添う」医療・ケアを行うことを大切な役割と考え、地域の皆さまと心を合わせ、理解しあい、支えあいながら、「地域完結型の医療・福祉」「キュアからケアへ」を実現する、地域のよき一員であり続ける所存です。



理事長 おがわ としこ 聡子



病院紹介

## 新院長 ご紹介



院長 すなが しんじ 須永 眞司

このたび、調布東山病院の院長に就任致しました須永眞司です。私はこれまで、総合内科医として地域の患者さまの診療をしてまいりました。診療をする上で私が大切にしているのは、患者さまやご家族の話をよく聞き、患者さまが何を求めているかを理解し、問題を解決するためにいっしょに考える、ということです。これまでの経験を生かし、患者さまやご家族にご満足いただけるような良質の医療を提供していきたいと思っています。

当院は開設以来、地域の皆さまを診療する病院として機能してきました。今後もこの方針は変わりません。この地域に暮ら

す住民の健康を守り、住み慣れた地域でその人らしく生活ができるように、病院としてサポートをしてまいります。そのためには、(1) 当院が提供する医療の質をさらに向上させること、(2) 地域のいろいろな機関・施設と良好なコミュニケーションを保ち、患者さまに不安・負担を与えないような連携協力を行うこと、の2点が重要と考えています。

病院、診療所、介護福祉施設、行政などが一体となって、調布市に住む人たちが安心して暮らしていけるような医療介護体制を作る、そのための努力を続けていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



病院紹介

## 新副院長 ご紹介

皆さま、こんにちは。

このたび、調布東山病院の副院長に就任いたしました中村ゆかりと申します。

10年以上も前になりますが、私は非常勤医として、週1回東山病院で血液内科の外来をしておりました。その時通院されていた本態性血小板血症のおばあちゃんが白血病になり、もう治療を受けたくないと言われ、どうしようかと迷っていたところ、当院の医師、看護師が温かいケアを施しながら、おばあちゃんの暮らすこのまちで最期を見届けてくれたのです。地域医療のすばらしさに感激し、自分のやりたい医療がここにあると決意し、仲間に加わりました。その当時私が抱いていた地域医療のイメージは、地域の病院で患者さんを診るというものでしたが、その後、種々の疾患や

社会背景を持つ多くの患者さまと出会い、地域医療は、それぞれ役割の違う医療機関が連携して行うもの、そして患者さまには暮らしがあり、介護や福祉の方々とのつながりが大切であることを教えていただきました。

10～20年後の少子高齢化社会、疾病構造の変化を見据え、今、医療が大きく変わろうとしています。治癒を目指した「治す」医療から、病気を抱えた方の生活を「支える」医療へ、このパラダイムシフトが進むなか、地域主体の地域包括ケアシステムの構築が求められています。

医療やケアの継続だけではなく、患者さまご家族さまがこうありたいという思いを地域の皆さまから受け取り、またそれが地域の皆さまにつながっていくことが本当の地域連携だと考えます。今後とも皆さまと顔と顔、

心と心を通わせ、患者さまご家族さまのうれしさ、つらさとともに寄り添い、この地域ならではの、地域包括ケアシステムを構築していきましょう。私たち病院も努力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



副院長 なかもら 中村 ゆかり



トピックス

## 「2016年度 入職式」が執り行われました

4月1日（金）、医療法人社団東山会の2016年度入職式が執り行われました。4月1日付の入職者数は17名。医師は須永院長はじめ、増井朋子医師（消化器内科）、児玉華子医師（膠原病・リウマチ内科）、平崎重雄医師（消化器外科）、山田素宏医師（ドック・健診科）の5名が入職しました。

式には、昨年度に中途入社し

た者も参加し、総勢35名ほどが出席。午前9時より、小川理事長による東山会の方針および各部門の方針説明を行ったのち、須永院長と各部長が挨拶を述べました。

その後、午前中は“医療安全”と“薬剤の情報共有”についての講義、午後からは秘書室による医師紹介、ドック健診センターによるマナー講習、総務課

からの管理書類についての説明が行われました。

丸一日をかけての入職式によって、新入職員に早くも東山会の一員としての自覚が芽生えた会となりました。

夕方からは本院7階の職員食堂〈いこい〉にて職員との懇親会を開催。軽食とドリンクを片手に和やかな雰囲気の中、交流を深めました。



※新入職医師の紹介が7ページにございます。あわせてご覧ください。

◀写真はいつでも懇親会での様子

トコトコ

## 調布さんぽ ～野川のライトアップ～

美しくもはかない春の夜の一大イベント



4月5日（火）の夜、毎年恒例の「野川の桜ライトアップ」が開催されました。1日限り、しかも18時～21時のたった3時間だけの、桜の花同様、美しくもはかない春の夜の一大イベントです。

この催しは、株式会社アーク・システムさん（本社・調布市）という映画撮影等の照明機材を扱う会社が一年に一度、地域の皆様への感謝の気持ちを込めて桜が一番美しく開く一瞬を狙い、850mの桜並木を見事に照らしてくださっています。闇夜に浮かぶたくさんの桜は圧巻かつ幻想的で、例年大勢の人たちが空を覆う桜や野川の水面に映る桜を楽しんでいます。

私たち職員も調布にご縁のあることに感謝しつつ、自然と技術が織り成す美を堪能しました。

文・撮影 / 宇佐見佳代（秘書室）

## とうざん写真部のご紹介

数名の職員がデジタル一眼レフカメラを購入したことをきっかけに、昨年「とうざん写真部」が発足しました。部長は中村ゆかり医師。カメラに造詣の深い返田常広医師、子どもや動物にカメラを向ける村岡和彦医師、毎週のようにカメラ片手に植物園に足を運ぶ山田隆医師を中心に様々な職種の職員が集い、活動をしています。

昨年は紅葉の美しい季節に高尾山に登り、この春は神代植物公園に足を運び、歓声を上げつつ美しい自然を切り取りました。こちらの写真は4月3日の部活動のときのものです。この日は、撮影の合間に山田医師による詳細な花の解説があり、写真の1枚1枚に命と息を感じる作品になったのではないのでしょうか。



撮影 / 返田常広（呼吸器内科）



## 「看護研究発表会」が開催されました

3月25日（金）、看護部教育委員会主催の看護研究発表会が調布東山病院で開催されました。参加者は97名。東山会の看護部をはじめ医療技術部、臨床工学部など各部署が1年間取

り組んできた研究の内容を発表しあいました。医療の質を高めようとする熱意ある取り組みを共有することで、職員の士気が高まる会となりました。

今後は、取り組みに対して科

学的な視点で解釈し、改善していくことで、東山会の医療やサービスの質向上につなげていきます。

### 外来透析センター / 「災害時における透析患者の自己管理意識向上を目指して」

マニュアルに沿ったアンケート実施後、意識向上のためDVD放映、ポスター掲示で情報を発信した。マニュアルを見返す動機付けは出来たが、十分ではなかった。今後、患者ひとり一人が自助努力の重要性を理解し有事に実践できる災害教育に取り組んでいきたい。

### 内視鏡センター / 「ESD看護の見直し」

ESD看護の見直しを行った。術前訪問の実施・看護記録内容の改定・看護計画立案実施・評価を取り入れた事で、ケアの標準化と個別性に合わせた看護ができるようになった。

### 桜ヶ丘東山クリニック /

「スタッフの災害時対応方法習得への取り組み」透析室の移転に伴い、災害時対応に対して患者さまやスタッフより不安の声が聞かれた。不安解消の為、訓練と勉強会を行いスタッフの知識、技術が向上した。今後は様々な工夫をした訓練と勉強会を継続していきたい。

### 6階病棟 / 「当病棟における転倒転落の現状把握～転倒転落アセスメントスコアシートの項目毎に転倒との関連性をみる～」

転倒転落アセスメントスコアシートを転倒あり群と転倒なし群に分け、先行研究との比較検討を行った。当病棟では「ポータブルトイレを使用している」「頻尿がある」が特に転倒転落との関連性が高いと明らかになった。

### 5階病棟 / 「清潔ケアの充実に向けた取り組み」

清潔ケアボードを作成し、ケアボードの活用方法についてスタッフに周知した。清潔ケアボード導入前

後の清潔ケア回数を調査した結果、大幅に清潔ケア回数を増やすことはできなかったが一部のスタッフには清潔ケアに対する意識づけができた。

### 外来 / 「当院外来における在宅療養支援時の効果的な情報収集を目指して」

外来通院の短い時間のなかで、短時間で効果的な在宅療養支援の情報収集を目指して、新しい情報収集シートを作成し運用した。結果、記録時間の短縮、情報の聞き取りやすさ、情報の場所の明確さに繋げることができた。

### 放射線科 / 「マンモグラフィ検診における技師読影開始に向けての取り組み」

マンモグラフィ検診での技師読影を開始するにあたり、トライアル期間を設けた。その結果を報告した。読影業務は撮影技術、読影能力の向上が期待でき評価システムとして有効と思われる。今後も読影補助となるよう努めたい。

### リハビリ室 / 「看取りのためにSTが果たすべき役割」

誤嚥性肺炎を繰り返したが、食べ続けながら自宅での看取りに繋がられた症例を経験した。嚥下の精査と家族への説明、スタッフ間での介助方法についての情報共有、家族への介助指導など、STとしてきめ細やかな対応が重要であると思われた。

### 臨床工学部 / 「オンラインHDF導入を経験して」

オンラインHDF開始までの課題を列挙し検討した。HD時との除去率の比較・臨床症状聴取シートを使用し評価を行った。短期間のため課題は残るが、愁訴の改善傾向も見られ、今後に期待したい血液浄化療法と考えられた。





トピックス

## 熊本地震 救援物資を送りました

この度、熊本県を中心とする九州地方での地震に被災された皆さまに対しまして、心よりお見舞いを申し上げます。

公益社団法人全日本病院協会・西日本若手病院経営者の会からの要請により、当院では4月17日（日）に「熊本県外の全日病会員病院の支援物資一時集結病院」に指定された福岡県のヨコクラ病院、田主丸中央病院へ、当院で備蓄していた水・

食料、その他物品を救援物資として送りました。（現在、支援の中継点は福岡県医師会へ移行されています）

大規模災害時、情報が遮断され、本当に必要なところに必要なものを送ることが難しくなります。多くの患者さまに対応している民間の中小病院にライフライン・物資が行き渡るのは後回しになることが多いなか、今回は過去の大震災の経験から全

国の中小民間病院同士でネットワークが作られており、早い段階でリアルな情報が共有され互助の機能が発揮できました。

今後も現地のニーズや要望に沿って、当院でもできる限りの支援を続けてまいります。



とうざん's

## きたみんのご紹介



今年4月1日より東山会に経営企画部広報室が新設されました。病院内外に、地域と東山会の動向や想いを発信していく役目を担った広報室ですが、そのメンバーの一人（一羽）が「きたみん」です。

きたみんは、喜多見東山クリニックのキャラクターとして2013年10月31日に誕生。同クリニック所長の高橋恵子医師が考案し、水田みゆき看護師

がイラストを描き起こしました。2014年8月にはリアルきたみん（着ぐるみ・右下写真）が完成。以来、東山会の職員に愛されつづけ、2015年4月からは東山会公認キャラクターとして活躍しています。

丸いフォルムがかわいらしいきたみんは野川出身のカモ。意外に素早い動きで、子どもたちだけでなくみんなの人気者です。毎年恒例の職員総会やクリスマ

スコンサート、ヨガ教室など、院内行事には欠かせない存在のきたみんですが、年々活動範囲を広げており、調布地域のお祭りなどにも参加しています。

院内バザーで活動資金を募り、いよいよ今年は念願の「世界キャラクターさみっと in 羽生」に参加予定です。これからも東山会の広報室メンバーとしてその魅力を発信していきますのでどうぞよろしくお願ひします。

5月14日（土）15日（日）10時～17時

## 調布観光フェスティバル



毎年恒例！ 調布市内の美味しい食べ物やこだわりの商品、ステキなサービス、楽しいパフォーマンスなどを一同に集め、調布の魅力をPRする地域密着型フェスティバル。今回も、調布にゆかりのある“ゆるキャラ”が大集合。東山会のキャラクター《きたみん》も昨年に引きつづき登場します！



### 山田隆 Dr. の 季節の植物図鑑 Vol.1

#### 御衣黄（ギョイコウ）

春、ソメイヨシノの花が終わる頃に咲き始める「緑色の花の桜」です。咲き始めた時の花の色は緑色ですが、時間の経過とともに黄緑色～黄色に変化し、花の中央部を中心に筋状に赤みを帯びてきます。花弁は肉厚で、外側に反り返ります。



文・撮影 / 山田隆（膠原病・リウマチ内科）

あっ！ 調布にこんなところが、 ちょうふの地産地消

## 三ツ木農園 & 深大にぎわいの里「調布のやさい畑」

昭和21年より調布と八王子で農業を続けている三ツ木農園。都市型の農業らしく、少量多品種の栽培をしているこちらの農園では、年間で160種もの農作物を手がけている。大根、水菜といったおなじみの野菜にはじまり、パクチー、エンダイブなど珍しい野菜まで手がけているのが三ツ木農園の特徴だ。「有機肥料を使って、農薬も極力使わないよう育てているので、うちの野菜は甘くてやわらかいんです」と農園スタッフの久保正さん。

毎朝6時頃から収穫した野菜は一つずつ丁寧に手洗いし、9時すぎに畑から徒歩でも数分の場所にある直売所、深大にぎわいの里「調布のやさい畑」に出荷する。なんと、この直売所も三ツ木農園の三ツ木孝社長が運営。「生産から販売まで一貫して行い、食卓に調布産の野菜を届けたい」という思いから、旧武蔵野市場を受け継いだのだそうだ。

店内には、三ツ木農園の野菜以外にも、調布市近郊や他県の農家から仕入れた野菜・加工品が販売されている。「どの商品

も私が自信をもって選んでいます」と加藤時彦店長。なかでも売り上げ数No.1は、三ツ木農園の葉野菜が少量ずつセットになった「サラダセット」(100円)。季節によって種類は異なるが、この日はわさび菜、からし菜、水菜、赤リアスからし菜、リアスからし菜、緑からし菜の6種が入っており、これで100円とは驚きだ。「5月頃からは夏野菜のトマト、ピーマン、ナスなどが入ってきます。白い縦縞模様のカプリス(ナス)など種類も豊富です」と加藤店長。果菜は、産地が遠方だと熟れる前に早もぎするが、調布産は食べごろになるまで“木熟”させるためより美味しいとのこと。「新鮮・安心・美味しい」と三拍子が揃った野菜をぜひ食卓でもお試しを。



三ツ木農園の新鮮朝採れ野菜のカブ、かつお菜、からし菜などいろいろな野菜が畑で成長中!

深大にぎわいの里 調布卸売センター内  
「調布のやさい畑」  
住所：深大寺元町 1-11-1  
電話：042-444-0327  
営業時間：9時～18時 休み：正月



①前列右が社長の三ツ木孝さん。後列左が取材に対応してくださった久保正さん。②害虫を食べてくれるテントウ虫は農園の心強い味方。③太陽に向かってすくすく成長する野菜の苗。④収穫した野菜はきれいに洗って出荷の準備。⑤深大にぎわいの里「調布のやさい畑」の加藤時彦店長。

## 5/8 は 世界赤十字デー

歳の時に事業拡大のためナポレオンに会おうとイタリア統一戦争の激戦地ソルフェリーノを訪れました。その際、惨状を目の当たりにした彼は、敵味方の区別なく傷ついた兵士の救護にあたりました。そして、「傷ついた兵士は、もはや兵士ではない、人間である。人間同士としてその尊い命は救わなければならない」が彼の信念となりました。のちに赤十字創設者としてノーベル平和賞第1回受賞者となりました。

「世界赤十字デー」とは、赤十字国際委員会の前身である「五人委員会」を立ち上げたスイス人実業家アンリー・デュナンの誕生日です。彼は1859年、31

## 消化器外科

ひらさき しげお  
平崎 重雄

はじめまして。4月1日より入職させていただきます平崎と申します。

これまで一般病院での消化器・乳腺外科診療のほかに、精神・神経疾患を持つ方の外科治療を、またホスピス病棟にて癌末期患者さまの緩和治療・看取りを多数行ってまいりました。

困った状況にある方々の、最後の砦になるような存在を目指してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



## 消化器内科

ますい ともこ  
増井 朋子

4月1日に入職いたしました消化器内科の増井朋子と申します。このたび、調布東山病院で働くご縁をいただき心より感謝しております。

これまで、専門の消化器内視鏡業務の他に、療養型病院でのお年寄りの医療や訪問診療にも携わってまいりました。東山病院では、消化器内科に加え、一般内科の初診外来も担当いたします。病と向き合っておられる地域の患者さまに、安心して良質な医療をお届けできますよう努めてまいります。また、病が治った後も、つつがなくお過ごしいただけますよう、健診による予防医療にも心を配ってまいります。

卒後20年以上が経ち、今までの仕事を振り返ってみますと、医師として大切なことはいつも患者さまから教わりました。その時々で、患者さまにとって何がベストであるかを人として一緒に悩み考えながら判断し、患者さまのお役に立てましたらこの上ない喜びです。なにとぞよろしくお願いいたします。



## 膠原病・感染症内科

こだま かこ  
児玉 華子

4月1日に着任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

専門はリウマチ・膠原病・感染症です。また、東洋医学・漢方も勉強しております。免疫の異常による、各所の様々な痛みや発熱、皮疹や臓器障害、しびれなど多岐にわたる症状を多く見てきました。

調布東山病院は、各科の専門医が揃っており、24時間365日、地域のニーズに応える素晴らしい病院と聞いております。医局の雰囲気も非常に楽しく、ここでまた更に多くのことを学びながら、かつ自分も微力ながら力になればと思い、入職いたしました。

内科全般から、特に各所に痛みのある方や原因不明の発熱に悩む方を多く診ていければと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



## ドック・健診センター

やまだ もとひろ  
山田 素宏

4月からドック・健診センターに着任いたしました。

当院で健診の診療を始めてから、まだ1ヶ月にも満たないのですが、受診してくださる方々が、皆温厚で良い方ばかりなので、有難く思っております。

これから調布市とその周辺の皆さまが、より健康に暮らしていけるよう、お手伝いしていくつもりですので、よろしくお願いいたします。





とうざん'S

## 地域医療連携室の紹介

### 地域医療連携室

主任 すぎた かおる 杉田 薫

地域医療連携室は、室長に中村ゆかり医師、副室長に矢崎清乃医師、地域からの外来・検査・入院の窓口を担当する事務員4名と、患者さまからの相談、退院支援や転院調整を担当するMSW3名で構成されています。

私たちは皆さまからいただいたご意見やご要望を院内に伝え、体制を整えていくことを大事な仕事と考えておりますので何なりとお申し付けください。この広報誌を通じて、当院の思いや、できることを発信し、先生方や



調布東山病院  
Chofu Touzan Hospital

地域で患者さまを支えている方々のお役に立てましたら幸いと存じます。今後とも変わらぬお付き合いの程、よろしくお願い申し上げます。

また、地域医療連携室では月に一度、患者さま向けに運動するきっかけや、運動を習慣付けていただくことを目的としたダンスやヨガ教室を企画し、当院の7階会議室で開催しております。先生方の患者さまや、スタッフの方々も奮ってご参加ください。広報担当のきたみんと一緒にお待ちしております。

### 連携室からのお知らせ

● 3月26日(土)運動療法教室(笑いヨガ)を開催しました。



### 次回の運動療法教室

5月28日(土) 14:00 ~ 15:00

### 『ピラティス教室』

患者さまのみならず、連携機関の皆さまもご参加いただけます。ご興味のある方は、地域医療連携室(042-481-5044)までご連絡ください。

ご連絡を  
お待ちしております!



### 医師向けイベント

第10回

### 調布医療連携カンファレンス

7月12日(火) 19:30 ~

演題 『心不全』(仮)

● 演者 榊原記念病院  
循環器内科 高見澤格 先生

第10回を記念して、カンファレンス後に懇親会を予定しています。

※詳細は5月20日(金)発送予定の調布医療連携カンファレンスの案内状をご覧ください。

### 地域の医療介護を支える仲間向けイベント

## 医療介護勉強会

6月14日(火)

18:00 ~ 20:30

テーマ

- 「その人らしく暮らせる 地域を目指すために」
- 「高齢者の摂食嚥下について」

※詳細は後日発送予定の医療介護勉強会の案内状をご覧ください。

### 患者さま向けイベント

第90回とうざん生活習慣病教室

### 肝脂肪から肝がんへ ~本当はコワイ脂肪肝~

5月14日(土)

14:00 ~ 15:30

講師 / 東京大学医学部附属病院  
消化器内科 中塚拓馬 先生(当院非常勤)

会場 / 調布東山病院7階会議室  
参加費 / 無料 (事前に予約は不要です)

問合せ / 調布東山病院 総務課  
(042-481-5513)

## 地域医療連携室

診察・検査・入院など、お気軽にご相談ください。



TEL: 042-481-5044 (直通)  
FAX: 042-481-5056

月~土・9:00 ~ 16:30  
日祝日・休み

編集後記 4月1日より経営企画部広報室が立ち上がりました。広報室の仕事のひとつめが、この「とうざん通信つなく」の編集・発行です。これから連携機関の皆さまをつなく誌面をつくっていただけるよう、広報室一同がんばります! (広報室)

編集 / 発行  
調布東山病院 経営企画部広報室  
TEL: 042-481-5583 FAX: 042-481-5535